

## 検査データの読み方

### －臨床検査の総論的な読み方(その46)－

「臨床検査の総論的な読み方」について述べています。「検査データからの鑑別の挙げかた」として5段階の考え方を示し、これまでにアルブミン・尿素・クレアチニン・尿酸・血糖・HbA1c・アンモニア・ビリルビン・甲状腺ホルモン・CK とその他の心筋マーカー、「肝疾患に対する検査」「腎疾患に対する検査」を取り上げてきました。

昨年12月から「腎疾患に対する検査」に関連した「尿検査」について述べ、6月からは「蛋白尿」を取り上げています。4種類の蛋白尿（腎前性・糸球体性・尿細管性・破綻性）のそれぞれについて解説しており、今回は破綻性蛋白尿についてです。

破綻性蛋白尿とはその名の通り、腎尿路系を囲む脈管系に破綻が生じた結果、尿流にその内容が流出して蛋白尿を生じるものです。これには血管の破綻によるものとリンパ管の破綻によるものの2種類が含まれます。

血管系の破綻によるものは、要するに尿中に血液が混入する訳ですから、必ず血尿を生じ、その程度によって赤色尿として観察されます。但し、ここで注意すべきは「逆は必ずしも真ならず」です。即ち、赤色尿であっても、必ずしも血尿ではなく破綻性蛋白尿でもない場合がある点に注意が必要です。詳しくは今年の3月～5月あたりの本連載をご覧いただければと思いますが、簡単に書きますと、赤色尿には血尿・ヘモグロビン尿・ミオグロビン尿が含まれます。そして、ヘモグロビン尿やミオグロビン尿の場合は破綻性蛋白尿ではなく「腎前性蛋白尿」をきたします。

一方、リンパ管の破綻による破綻性蛋白尿は比較的珍しいものではありませんが、病的に増生したリンパ管の破綻により尿中にリンパ液が流出する事により起こります。この場合、流出量が多ければ尿は白濁し、乳び尿を呈します。

では、破綻性蛋白尿の成分はどのようなもののでしょうか。これは皆さまご想像の通りかと思えます。つまり血液成分もしくはリンパ液成分が尿中に流出することによる蛋白尿なのですから、その蛋白成分は血漿ないしリンパ液とほぼ同様のものになります。言い換えれば、蛋白電気泳動のパターンとしては血清蛋白電気泳動もしくはリンパ液の蛋白電気泳動と類似したパターンを示すということになります。

ここまで4種類の蛋白尿について述べてきました。これらの違いを理解することで、よりきめ細かい診療に役立てていただければと願っています。

今回は、ベンスジョーンズ蛋白（Bence Jones protein, BJP）について述べます。

内容に関するお問い合わせ・記事にして欲しい検査のご要望などはこちらへ

☎ 0263-32-8042    ✉ kensa@matsu-med.or.jp

